

県協会だより

第 41 号

令和元年 10 月 4 日

発行

鳥 取 県

バドミントン協会

総務本部 総務部

◆◆◆ 第 74 回国民体育大会/いきいき茨城ゆめ国体 ” 成年男子 5 位入賞 ”

石岡市運動公園体育館で行われた「いきいき茨城ゆめ国体」において、鳥取県成年男子(監督/花本大地 選手/林谷理貴、森田慎司、小林寛哉)が、1 回戦で香川を 2-0 で下し入賞を決めました。4 強入りをかけた富山戦は 0-2 で敗れましたが、見事に 5 位入賞を果たしました。

成年女子は鹿児島に 1-2 で、少年男子は富山に 0-2 で敗れ入賞はなりませんでした。

◆中国ブロック大会 報告

強化本部長 松本 伸司

8 月 24 日・25 日に松江市鹿島総合体育館で行われた中国ブロック大会に成年男子、少年男子、少年女子の 3 種目が出場しました。結果としては成年男子が優勝、少年男子が 3 位、少年女子が 4 位でした。

成年男子の優勝は稀にみる劇的な優勝でした。初日の島根戦では 3-0 で勝ち、山口戦には 2-1 で勝利、二日目の岡山戦に 1-2 で敗れたものの、1 単の森田が頑張り、勝ち数 1 をもぎ取りました。その試合は 1 ゲームを 8-21 で落とし、2 ゲームは 21-19 で取り、ファイナルは 2-11 からの大逆転で最後は 30-28 で勝ち切りました。次の広島戦では、小林・林谷の複が 2-0 で勝ち、1 単の森田が 2-0 で勝ち、最後は主将の小林が 2 単を 2-0 で勝ちきって広島県に勝利しました。岡山戦での森田のファイナルゲームは正式な試合で始めてみた 30-28 のスコアでした。成年男子はゲーム率の優位で、感動的な優勝を果たす事が出来ました。過去の記録・当時の選手の皆さんの記憶を調べましたが、間違いなく平成元年以降では国体中国ブロック大会に於いての成年男子の優勝(1 位抜)は初めてです。昭和の記録がはっきりしませんが、快挙だと言う事は間違いありません。

少年男子は山口県・岡山県に 0-3 と敗れはしましたが、島根県に 3-0、広島県に 2-1 と勝利し、本国体出場(今大会 3 枠)を果たしました。少年女子は島根県に勝利したものの山口県・岡山県・広島県に敗退。残念ながら本国体出場を逃しました。



9 月 28 日から茨城県石岡市で行われる第 74 回国民体育大会には、成年男子・成年女子・少年男子の 3 種目が出場します。各種目ベスト 8 を目標に精一杯戦って来ますので、皆様の応援を宜しくお願いいたします。

また、福岡県で行われた全日本社会人選手権大会で岸田洋子・桶田彩乃(Cheerful 鳥取)の女子ダブルスと、林谷理貴・桶田彩乃(国体成年男子選手・Cheerful 鳥取)のミックスダブルスがベスト 16 に入賞し、全日本総合選手権大会の出場権を獲得しました。併せて応援を宜しくお願いいたします。

◆◆◆ 3 地域(鳥取県、江原道、ロシア沿海地方)スポーツ交流事業《7 月 24 日～28 日》

7 月 24 日から 28 日の 5 日間に渡り、第 10 回鳥取県・江原道・沿海地方 3 地域青少年スポーツ交流事業が行われ、7 月 25 日、26 日には米子産業体育館においてバドミントン競技が行われました。鳥取県からは 2 チーム 12 名の選手が参加しました。

〈参加者からの感想〉

北栄町立大栄中学校 新木 統 ・ 新木 颯

僕たちは、バドミントンの三地域交流会で、ロシアのウラジオストクの選手と韓国の江原道の選手たちと交流させてもらって貴重な体験をさせてもらいました。

ロシアのウラジオストクの選手たちは背が高くとても手足が長く、日本の選手と対戦するよりもコート隅のコーナーや高い位置のシャトルまで手が届くので、試合の仕方いつもやっている鳥取県の中学生の試合とは感じが違って、勉強になるところがありました。また、韓国の選手はスマッシュも時々すごく早いスマッシュの時もあり、また、鳥取県の中学生の試合の時とは違う感じの試合でした。かけ声もコーチのアドバイスも鳥取県のいつもきいているかけ声とは違うかけ声で、いろいろなペアの組み方も見せてもらってとても勉強になりました。

また、言葉はロシア語や韓国語で意味はよくわからなかったけど、昼間のバドミントンの試合だけでなく、夜の歓迎会でも楽しく交流させてもらいました。はじめは鳥取県の人としか話ができていなかったけど、時間がたつにつれて少しずつ慣れてきてふれあいの時間をもつことができ、女子の中には友だちになった人もいて、楽しい二日間になりました。貴重な体験をありがとうございました。

米子市立東山中学校 岡田 小都乃

私はこの交流会に参加できると知ったとき、他の国の人たちとバドミントンができる機会なんて二度とないかもしれない、と思ってすごく楽しみでした。試合は全部勝ちたいと思い交流会に行きました。

ついに当日が来ました。私はワクワクしながら体育館で待っていると、目を疑うほど背の高い女の子が入ってきたと思ったら、それはロシアのバドミントンの選手でした。すごく強そうなオーラを放ちながら入場してきたロシアと韓国の選手を見て、最初は少し怖かったです。試合は、はじめにロシアと対戦しました。私はダブルスに出たのですが相手の背が高すぎて苦戦しました。韓国との試合ではシングルスに出たのですが、相手のネットショットの上手さに全くついていけず、圧倒されました。お昼ご飯はみんなで一緒に食べたので、そこでたくさん話すことができました。みんなで何年生か聞きあっていると、ロシアの選手が「nine」とずっと言っていました。後から通訳の方に聞くと、ロシアでは中学校がなく、九年生ということでした。同級生とわかり驚きました。二日目は交流試合で他の国の選手と組んで試合をしました。休憩中にみんなでけん玉をして遊びました。韓国とロシアの選手たちが楽しそうに遊んでいたのがうれしかったです。二日間とてもいい経験になりました。今回大勢の役員の方にお世話になり、たくさんの協力を感じました。この機会を作ってくださった方々に感謝したいです。

北栄町立大栄中学校 塚本 咲菜

私は、二日間の三地域スポーツ交流はとても楽しかったです。言葉の壁を越えて、ロシア・韓国の人たちと交流できて、仲良くなれたことがとても嬉しかったです。

一日目は、はじめ、言葉は通じないし、緊張したりして積極的に自ら話しかけたりはできませんでした。しかし、交流試合をし、プレゼントを交換しあってから少しずつ緊張もほぐれてきて、ロシアの人たちと身振り、手振りの会話が沢山できました。一日目の昼食の時には、少しだけ韓国の人たちとも



交流できました。昼食の時仲良くなった人たちとは、午後からもたくさん会話したりできて楽しかったです。

一日目の夜の晩さん会では、同じテーブルで夕食を食べたり、一緒にたくさん写真を撮ったりして、最後の方には芸も披露しあえて、女子とはみんなと仲良くなれたし、男子とも仲良くなれてとても嬉しかったし楽しかったです。

二日目は、ホテルの朝食の時や体育館に着いた時に手を振りあえたりしました。交流試合は韓国の人たちとして、より韓国の人たちと仲良くなれ、試合が終わった後には一緒にけん玉をしたりして男女で仲良くなれました。二日目の昼食の時は、韓国の人にもロシアの人にも参加国が混じって楽しく食事ができて、言葉の壁をこえるってこういうことなんだと初めて実感しました。午後からは、参加国の全員で一つのコートで打ったり、男女交えて三対三をしたりして、声を掛け合いながら協力して楽しく戦いながら交流できました。私は、初めて外国の人たちと交流して、初めは緊張と言葉の壁があっけごちなかったけど、とても仲良くなれたし、プレゼント交換もしあえて良かったです。

このような経験は今までにないし、これからもあまりできないと思うので、本当に良い経験ができたと思います。

北栄町立大栄中学校 田熊 佑衣

私が三地域交流会に参加して感じたことは、ロシア人の選手は背が高く、一歩も大きいのでどこに打ってもシャトルが返ってきてふられるばかりだったことです。あとスマッシュが速く、角度があっけごちかったです。韓国人の選手は、体がかっちりしていて、動きが速くてとても強かったです。これからのプレーにいかしていきたいです。

一日目の試合で韓国一位、日本二位、ロシア三位でしたが、私は一勝もできませんでした。一勝もできなくて悔しかったけど、交流をして学ぶことがたくさんありました。二日目はロシア人と韓国人とダブルスを組みました。最初はどうやってコミュニケーションをとればいいのかわからなかったけど、ロシア人も韓国人も笑わせてくれたり、ミスをして、ドンマイと言っているようなそぶりをしてくれてとても楽しくできました。この経験を周りの人たちに伝えたいです。今回の交流会でお世話になった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。



鳥取市立東中学校 森本 蔵人

僕は、三地域交流試合を通して、バドミントンの面でも生活の面でも多くのことを学ぶことができました。

一つ目はバドミントンについてです。ロシアの選手は手足が長くてリーチがあるだけでなく、身長もとても高かったです。普段は自分の身長と同じくらいの選手と試合をすることが多く、身長の高い選手とあまり試合をしたことがありませんでした。上から打たれるスマッシュ

はとても威力があり、とても良い機会となりました。また、韓国の選手は技術面・体力面・精神面、いずれにおいても強さを感じさせ、憧れを抱きました。交流試合では、驚くようなショットがいくつも返ってきました。自分よりも一歳年上の選手でしたが、たった一つしか変わらないことに驚きを隠せませんでした。来年は自分も三年生なので、少しでも追いつきたいと思いました。

二つ目は英語についてです。会話の言語は概ね英語でした。ロシア・韓国の選手のみなさんはそれぞれ母国の言葉があるにもかかわらず、英語が上手でした。自分自身たくさん交流したかったので、自分

なりの英語で積極的に話しかけてみました。意外と通じ合えて、いろいろな話をして友だちになることもできました。しかし、もっとすらすらと英語を話せるようになりたいと思いました。来年は東京オリンピックが開催され、もっと国際的な世の中になると思います。英語が話せることはとても大切だと思います。

三つ目に感じたことは、「感謝の気持ちを持つことの大切さ」です。僕たちにこのような貴重な体験をする機会をくださった鳥取県の関係者の方々はもちろんですが、韓国やロシアの関係者の方々など多くの人にお世話になって今回の参加となりました。僕たちが知らないところで多くの人が交流に携わって動いてくださったことに感謝の気持ちしかありません。いろいろな大会等で試合ができるのも準備などに動いてくださる方々がおられることをもっと意識して、感謝の気持ちを持って試合に臨みたいと思います。最後に、今回の交流や試合を通して学んだことを今後の練習や試合に生かせるよう頑張り、より良い大会成績を残したいです。また、勉強でもさらに良い成績が残せるよう、何事にも全力でトライして頑張っていきたいと思います。

◆◆◆第 53 回全国ろうあ者体育大会 第 27 回バドミントン競技を終えて

事業本部長 濱橋 喜幸

日頃は協会事業にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

令和元年 9 月 19 日～22 日にかけて第 53 回全国ろうあ者体育大会が鳥取・島根両県で開催されました。

バドミントン競技は鳥取市の鳥取産業体育館で 9 月 21 日～22 日まで競技が開催され、北は北海道から南は鹿児島県までの 20 都道府県より 58 名の選手が参加され男・女シングルス（1 部・2 部）、男・女ダブルス（1 部・2 部）、混合ダブルス（1 部・2 部）の種目で熱戦が繰り広げられました。



鳥取県からは女性 4 名の参加が有り、女子ダブルス 2 部では前田真那・田中菜月ペアが準優勝、女子シングルス 2 部では前田真那さんが 3 位に入賞され、日本海新聞の第 1 面記事にカラー写真付きで掲載されました。

昨年度は埼玉県朝霞市で開催され、源理事長、伊藤事業部長と濱橋の 3 名で視察を行い準備を進めてきました。聴覚障害者の大会と言うことで、手話通訳さんを経由してのルール説明が旨くいくかどうか心配でしたが、大会当日は体育館の中にスクリーンを設置して選手の試合案内をプロジェクターで映して見て貰う方式を取られていて、鳥取大会でもその方式を採用させて頂きました。

開始式では加藤会長が歓迎のあいさつを述べられ、同時手話通訳で聴覚障害者に伝えられました。大会会場は 6 コートで行い、2 日間に分けて実施されました。台風 17 号が鳥取に接近中と言うことも有り、遠方から来られている選手・役員関係者には JR、航空機が動いている間に帰路につかれました。

今大会の運営にご協力頂いた県レディース連盟、鳥取東高、鳥取西高、鳥取湖陵高校の皆様には、大変お世話になりました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。